

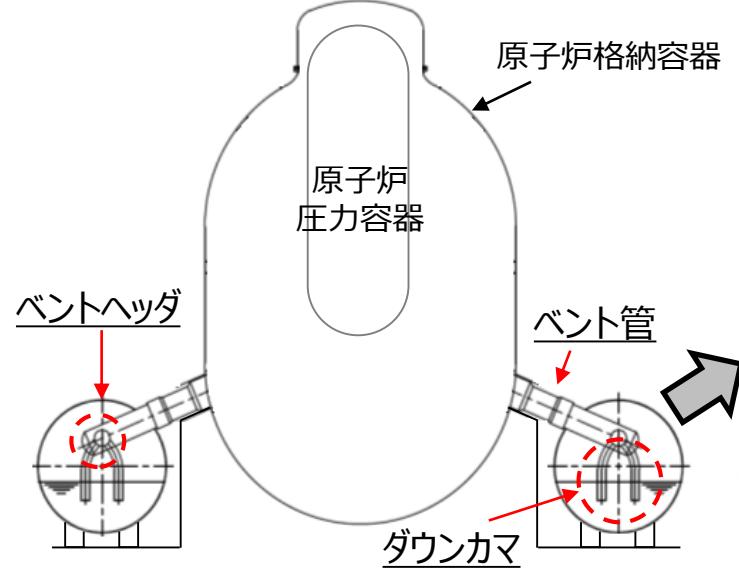
女川2号機における安全対策工事完了時期の見直しの概要について

- 2021年12月23日の工事計画の認可により、安全対策工事の内容が確定し、工事全体の工程をより詳細に見通せる状況となったことを踏まえ、改めて工事の完了時期について評価。
- その結果、工事計画認可の審査において説明を行ってきた「圧力抑制室の耐震補強工事」などが工程に与える影響を考慮し、2023年11月の工事完了を目指して工事を進めていくこととした。

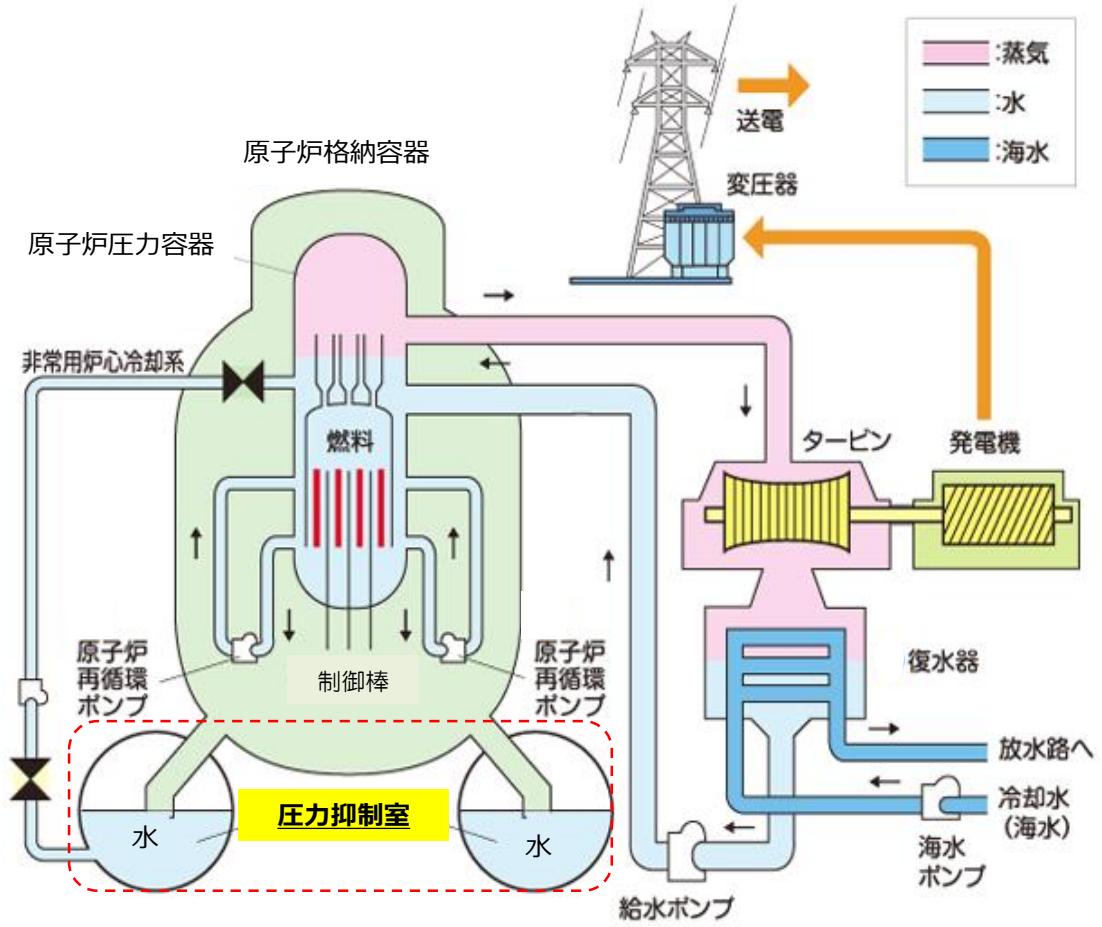
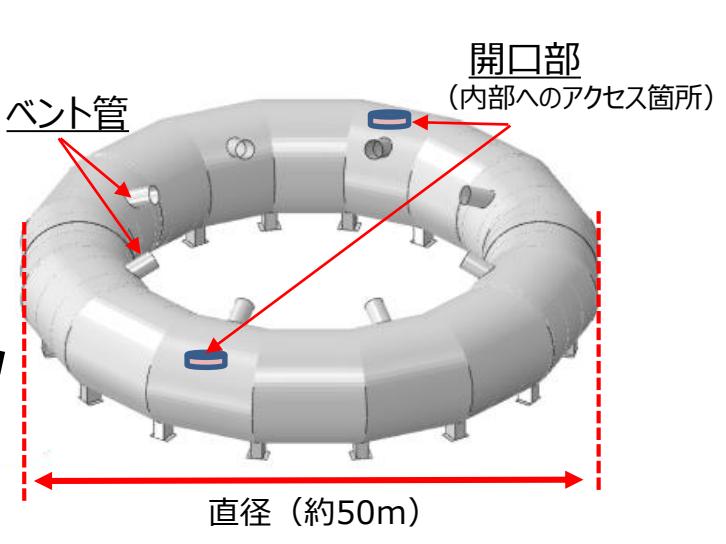
【圧力抑制室の耐震補強工事】

- 当該工事は、基準地震動に対する耐震性を確保する観点などから、圧力抑制室本体や内部の構造物（ベントヘッド、ダウンカマなど）に対して、新たに補強部材を追加することで耐震性の向上を図るもの。
- 圧力抑制室内部の構造物に対する耐震補強工事の実施にあたっては、これまでに経験のない工事となることから、実機模型を作成し、工事工法・工程を検討してきたところ。
- その結果、直径約1.5mの開口部（2箇所のみ）からの内部へのアクセスや、構造物が入り組む内部（直径約10m）での足場の設置が必要となり、狭隘な場所で複数の工事を並行して実施していくことから、当該工事の完了時期について、2023年11月と評価。
- なお、放射線管理区域内における溶接作業等が中心となることから、労働環境に十分配慮しながら、安全確保を大前提とした工事計画としている。
※ベント管、ベントヘッド、ダウンカマ：格納容器内の配管が破断し、蒸気が発生して圧力が上昇した場合などに蒸気を圧力抑制室に導くための構造物

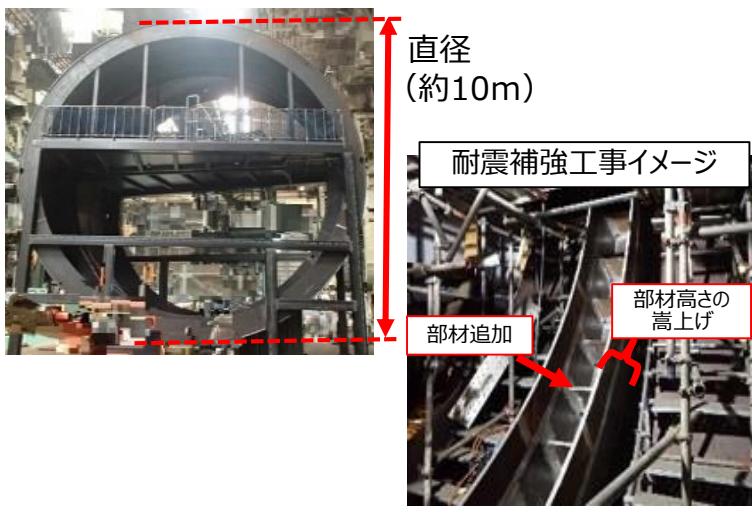
原子炉格納容器全体図



圧力抑制室全体図



圧力抑制室の実機模型



圧力抑制室開口部と内部の足場設置状況



<圧力抑制室>
 原子炉格納容器の一部で、大量の水を常時貯蔵している円環形（ドーナツ状）の構造物。格納容器内の配管が破断し、蒸気が発生して圧力が上昇した場合などに、蒸気を圧力抑制室に導き冷却することで、原子炉格納容器の圧力を下げる。また、原子炉を冷却する機能が失われた場合に非常用の冷却水を供給する役割も果たす。なお、女川2号機の圧力抑制室には、常時約2,900tの水を貯蔵している。